

自己評価及び外部評価結果 一階

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100768		
法人名	有限会社 おおいし		
事業所名	グループホーム くつろぎ(1階ユニット)		
所在地	釧路市愛国西2丁目7番10号		
自己評価作成日	令和5年12月14日	評価結果市町村受理日	令和6年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されている方々の生活を一律と考えるのではなく、これまでの生活習慣の継続を尊重している。例えば元々寝て過ごされていた方に対して起きることを強要することは無く、食事時間も個々によって違うこともある。箸が使いにくくなった方が自力で摂取出来るよう手づかみし易い様に形成したりしている。夜間不眠だからと直ぐに眠剤を処方して頂くことは無い。決まりはあるものの最低限度としている。コロナ禍で面会全面禁止のところが多い中、グループホームは入居者の家というスタンスの上で全面禁止としたのはクラスター発生した期間で短期間としていた。共同生活の中で規則は必要だが、最低限度とし窮屈な思いを出来るだけしないよう努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100768-00&Ser
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和6年1月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果 一階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念は、フロア内に掲げており、バイタルチェックや飲食物や排泄、日々の言動等の記載に努め、申し送りをしながら、毎日、笑いを誘う対応をしながら実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で思うように出来ていなかったが、5類に移行後、散歩・買い物・ボランティアの受け入れ等の再開を始めた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へ向けて活かすことは出来ていないのが実情だが、運営推進会議の参加者が少しずつ増え始めてきたので、今後、地域の方々が会議も含めて参加しやすい場面を考えていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者が少なかったが、今年度から家族の参加が増え、アドバイスを頂いたりし始めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護困難の入居者の対応について包括に相談したり、介護高齢課の担当者に相談してアドバイスを頂きケアに繋げている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉の拘束も含めて注意しあい、防犯上19時以降は玄関を施錠しているが、外に出る、出たい希望をされる方もいるが、制止はせず、さりげなく同行させて頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	改めての研修等はしていないが、会議は勿論、日々の介護の途中でも「あおの言葉は」「あの行動は」と話し合い、注意しあって虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、保佐人制度を利用している人が1名いる。以前にも1人おり、簡単なことは理解している。現在、他に必要な人はいない。今後、状況に合わせて必要時には関係各所に相談しながら進めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけ、丁寧に説明しながら、質問等を受け、同意をお頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や希望は日々の言動からもくみ取ると共に、1階の利用者は比較的自ら職員へ要望や意見を言うてくる。家族が訪問された時も用事だけではなく、雑談等しながら引き出すよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日々の会話の中から意見や提案を受けて居室内やフロアの物干し、トイレの手すり等の設置に繋げた。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長や管理者は職員との関りを強く持ち、日ごろの会話の中からもくみ取るように努めており、必要時には社長へ相談している。資格手当の増設に繋げたり、休憩室の改築も進言して承諾を得た。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍と人手不足にて研修が思うように出来ていない、新入植者に対しては、ケアの中で時間をかけながら指導している。今年度より、ホーム内の研修を充実させると共に、外部研修への勧めもおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にて、同業者との交流が難しかったが、時折、前ホーム長が他のグループホームの管理者と話をし、進言してくれている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学時にも、ご本人とはコミュニケーションを多く持ち、入居後は自室で時間をかけて話をしたりと努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、契約時、入居時と話を伺い、情報書類も把握し、声掛けしながら努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を頂きながら、医療関係の情報、受診時等の介護タクシーの説明等もしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	以前は、食器拭き等のお願いをしていたが、入居者同士のトラブルが起きたのと、コロナ禍にて現在はしていない。袋つくりとカレンダー代わりにポスター作成等お願いしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは連絡を密にして、衣替え、本人希望の物品購入、私物交換の依頼等している。入居男性の妻の入院先に面会にも行って頂いた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの病院への継続受診を勧めている。コロナ禍であっても厳しい訪問制限は短期間としていた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を考えて食席や居間の模様替えをしている。居室の相互訪問等もされ、一緒に何かを作ることも支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了直後はご家族との関りがあっても、年数が経過すると消えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを基本とし、日誌に記載、会議などでの情報交換をし、ケアプランに反映させて本人本位の支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の基本情報及び、入居後の本人、家族・知人友人等(訪問時)から情報を得るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃からの関りと日誌や会議等から状況・状態の把握に努め、勤務者同士での会話の中でも有する力がどんなものかを確認させてもらうこともある。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議の中での話し合い、全員でのアセスメント、日ごろからの家族との情報交換、本人の意向のくみ取り、都度対応の変更や試み等しながら介護計画へ繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌へのこまめな記載を心掛け、申し送りノートや会議等で「こんな工夫をしてみた」等、情報を共有しながら介護計画へ繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科往診の受けいれ、訪問美容の受けいれ、希望がある場合は看取りをしている。ただ、地域への発信に関しては現状では難しい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で思うように出来ていなかったが、5類に移行後、散歩・買い物・ボランティアの受けいれ等、ゆっくりとしたペースで進めていく。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続を勧め、受診時には状態を口頭や手紙で伝え、時として、受診が難しくなってきた方に対しては訪問診療先も提案している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師来訪時には状態を伝えて指示や提案を受け、急遽の時には電話で報告相談をしている。以前には訪問看護師の指示を受けて受診へ繋げたこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供、入院中の情報把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に説明をし、状態・状況に応じて話し合いながら入院・看取り等の希望を確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はしていないが、マニュアルあるのと経験と職員の協同・経験することで実践力を身に付けていっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は定期的に行っているが、マニュアルはあるものの、地震や水害等の避難訓練はしていない。地域では隣家とのみ。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他者前で排泄や体調等に関する話はしないように出来るだけ居室で話をさせて頂いている。性格を踏まえた言葉使いもしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話中で、想いの把握に努め、選択できるような声掛けをしている。1階は自己主張が出来る方が多いので見守りながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼夜逆転になるリスクも考えながら、本人のペースでの生活を見守っている。就寝・食事・散歩外出等も出来る限り本人ペースを大事に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1階は自分で選ばれる方が多く1日に何度か着替えする方もいる。男性の髭剃りもさりげなく声掛けしており、衣類やスリッパ等を家族に代わって購入する場合は好みの物・色等に留意している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いなものは別のものに変え、盛り付け等の見栄え、食席も適時考え職員も一緒に食事を摂り、コロナの関係で食事中の会話が減り、お手伝いは中止しているのが現状。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日誌に記載しながら十分なものが摂れるように努め、好きなものを用意したりしながら配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のお茶提供、起床時・就寝時のうがいや歯磨きの声掛けをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	多くの入居者が排泄は自立されている。夜間のみオムツを希望される方に対しては時間を聞いて対応したり希望された時に対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、繊維質の多い食材の利用、運動の声掛けを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本、入浴日は決まってはいるが、その時の本人の気持ちや受診等の関係から、時間を遅くしたり、日にちを変えたりとしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の清潔さ、明るさ、昼夜逆転に留意しながらも強制的入床の声掛けをすることはせず、見守りながら安眠につながるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関する個々人のファイルを誰もが直ぐに確認できるようにしており、服薬前後の確認も別々にしている。基本、服用し辛い方には専用の小器を用意したり、トロミがけしたりと工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	パズルや数字合わせ等のゲームや、寝具交換、作品づくり等の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は、花見や外食、買い物、ドライブ等していたが、コロナ禍と職員不足にて出来ていないのが現状。5類になったこともあり、今後再会していきたい。散歩を希望される方にはその都度対応して出かけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手持ちされる場合は、紛失しても構わない少額とお願いしている。持たれている方もおられるが、持っていない方の方が多い、入居が長期間になると自ら支払うという感覚が失われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もいる。手紙のやり取りは相手から届いても「書けない」「面倒」と入居者自ら書こうとする方はいない。電話希望時はかける事可能だが、耳が遠い方が多く難しい。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとのポスター等の飾りつけ、乾燥時期は加湿機に加えて濡れタオル、換気もしている。時折、フロアで音楽をかけたいたりしている。他者に対して何でも大声で文句を言われる方は隣に職員が座って話をしたり作業をすることで発声が収まるので出来る限り対応している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食席、ところどころに椅子を置いてあり、思い思いに座って過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の家具などを持ってきて頂いている。個々人の好みにあった空間をご家族と相談しながら工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には表札、浴室・トイレにはプレートを下げ、玄関の施錠は日中はしていない。現入居者の殆どが自由に、自分で動かれている。		